# 

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info\_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭 © JASE. 2015 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

.tc	「関西性教育研修セミナー2015夏」報告 ・・・・・・ 1	もっと知りたい男子の性⑩・・・・・・・12
	「東京性教育研修セミナー2015夏」報告 ・・・・・ 7	今月のブックガイド・・・・・・・14
CO	第22回WAS国際会議] 見聞記 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	JASEインフォメーション · · · · · · 15
	性教育の歴史を尋ねる⑳・・・・・・・・・・・11	

## ● 「関西性教育研修セミナー 2015 夏」 報告

# Nature loves diversity, but our society may not 人間の性をめぐる諸言説の本当と嘘

2015 年 8 月 9 日(日曜日)午後 1 時より、大阪府立大学「I-site なんば」において、「人間の性をめぐる諸言説の本当と嘘」をテーマに関西性教育研修セミナーが開催された。前半でミルトン・ダイアモンド教授(ハワイ大学)とフィリップ・トロモビッチ教授(同志社大学)が講演した後、後半では東優子教授(大阪府立大学)を交えた鼎談、そして会場との質疑応答がおこなわれた。

主催:関西性教育研修セミナー実行委員会

### 性を扱う際の心得

開会にあたって、企画者の東優子教授(大阪府立大学)から今回のセミナーの趣旨説明がなされた。

\* \*

人気歌手レディー・ガガのヒット曲でもお馴染みの "Born this way" (生まれつきこうなんだ) は、とく に同性愛者やトランスジェンダーなど、性的マイノリティのありようについて使用されるフレーズです。と くに同性愛や異性愛といったありようを「性的指向」と言います。

性的関心が同性や異性などに方向づけされているという意味である orientation の訳語なので「指向」と



趣旨説明をする東優子教授

いう漢字を当てはめるのが正解なわけですが、「志向」や「嗜好」じゃないという説明においては、きまって「同性愛は先天的に規定されている」ということも強調されるのではないでしょうか。

しかし実は、性的指向が先天的に規定されているか どうかについては結論が出ていません。そうだろうと 思われるエビデンスは多数ありますし、いったん方向 づけされたものは本人の意思をもってしても動かしが たいものであること、またそれを長期の心理・精神療 法などで転向させようとすることは非人道的・非倫理 的であるという点においても、専門家の間では合意が 形成されています。でも、「方向づけ」に影響するも のが何であるのかについては、すべて仮説なのです。

それでも、同性愛者やトランスジェンダーなどのありようが「志向」や「嗜好」じゃないんだ、"Born this way" なんだということが強調される背景には、社会的規範から逸脱する者たちが「神を冒涜する者」あるいは「犯罪者」や「性的異常者」「倒錯者」といった汚名を着せられてきた歴史があり、規範に沿うよう転向させようとする社会的圧力の存在があります。

性科学というのは、人間の性にまつわる様々な謎を 科学的に解明しようとする学問領域ですが、性科学を 取り巻く社会的環境はこれを非常に困難なものにして います。社会が好ましいと思わないもの、とくに子ど もとセクシュアリティについては調査研究が許される 状況にはありません。日本性教育協会が実施している 「青少年の性行動全国調査」(2011 年に第7回の調査が 行われ『「若者の性」白書』として刊行されている) にしても、ランダム・サンプリング(無作為抽出法) による実施が困難な状況が生まれています。

本日の講師であるトロモビッチ博士にしても、彼と 共同研究者が行った若年者のセクシュアリティに関す る科学的研究は、その結果示唆された内容が社会的に 望ましくないものであったがゆえに問題視され、米国 の国会で取り上げられるほどの騒動にも発展しました。 その他にも、特定の宗教や文化において長年実践され、 あるいは医療関係者の利害関係が大きく絡むような 「男子割礼(包皮切除)」などについても、その負の影響を明らかにしようとする研究に対する社会的圧力と いったものが存在します。

この後お話いただくダイアモンド博士は、私の恩師です。世界中に多くの教え子をもつ彼の教えのなかで、 私がとくに重要だと思ったのは次の「性を扱う際の心得」です。

●性に関する言説で、ある種の感情や態度を伴わない ものは存在せず、個人や社会の都合で「事実」は変 色してしまうことがある。

- ●「一般論」や「傾向」について語ったり、教えたり することは必要であるが、ひとりひとりの人間は 「平均」と一致することもあれば、劇的に異なるこ ともある。(その個人の問題を個別化することが重 要である。)
- ●「何がどうである」、「何がどうあるかもしれない」、 「何がどうあるべき」というのは、常に、明確に、 区別して語られなければならない。しかし、「何が どうである」が常に明確に認識されているわけでは なく、「何がどうあるべき」をめぐる意見は常に分 かれ、流動的である。

当たり前のことを言っているようで、これをちゃんと実践しようとすることはなかなか難しいことです。「政治家」はもとより、実は「教育者」「科学者」「研究者」を自称している人たちでさえ、実は怪しい言説を流布し続けている人たちは多いものです。これができるか、できないかではなく、「心得」を常に意識しつつ、言論活動をしていくことが大切なのです。今日のセミナーの内容についても、リテラシー(読み解く力)を存分に発揮しつつ、クリティークしていただきたいと思います。

\* \*



これに続いて登壇した ミルトン・ダイアモンド 教授は、GIRES 研究賞 (英国:1999)、マグヌ ス・ヒルシュフェルト賞 (ドイツ:2000)、アジ ア・オセアニア性科学連 合賞(2005)、LFTS 国 際 Diversity 賞(ノルウ ェー:2005)、インター

セックス協会賞 (ドイツ: 2008)、ハワイ大学評議員 奨励賞 (米国: 2009)、GIRES 研究賞 (英国: 2010)、 キンゼイ賞 (米国: 2011) など、世界各国でその功績 が讃えられている世界的な性科学者である。

今回のセミナー直前にもシンガポールで開催された WAS(世界性の健康学会)国際会議で、その長年に わたる性科学への貢献に対して「金賞」が贈られたば かりである。その受賞記念講演のダイジェスト版をセ ミナーで再現してもらった。

#### 性の定義をめぐって

子どもが生まれたときに、最初に私たちは、この子は男の子なんだろうか、女の子なんだろうかということを疑問に思ったりします。そして、その違いは何なんだろうか、どういうふうな影響で子どもは育っていくんだろうか、というようなことを話します。人格や気性、それから人生の選択などなど、どういうふうに発達していくんだろう、ということが話題になります。

男というのは、女というのはどう定義されるのかということを考えるわけですけれども、例えば、生物学的な男性の特徴として、染色体はXYで、精巣があって、ペニスがあって、前立腺があるとか、生物学的に女性であるというのは、染色体が XXで、卵巣があって、膣があって、というように、生物学的な特徴というものについては、あまり異論は起こりません。

男と女の定義がありますけれども、それだけではな く、生物学的な特徴として、インターセックスと呼ば れる特徴を持っている人たちが存在しています。

それぞれの定義(スライド1)があります。例えば、トランスセクシュアルについては、古いところでは、別名「ハリーベンジャミン症候群」という言葉がありました。ハリーベンジャミン(Harry Benjamin)は、「トランスセクシュアルの父」とも呼ばれた内分泌科医の名前です。

そのほかにも、インターセクシュアリティ、インターセックスと呼ばれ、生物学上の女性的、男性的特徴の両方を有していたり、一部分を有してしいたりする人々がいます。基本的に2つのタイプがあり、出生時の性器の特徴で明らかになるタイプと、それから特別

 ・ セックス (生物学的)

 - 男性
 ・ XY, 精巣, ペニス, 前立腺, 陰嚢, etc.

 - 女性
 ・ XX, 卵巣, 鼬, 子宮, 乳房, 卵管, etc.

 ・ インターセックス (生物学的)
 - 生物学的な男性・女性としての特徴の組み合わせー学陰陽, 仮性半陰陽 ※現在は使用されていない用語ーで、CAH、CAIS、pAIS、5-alpha、17-beta、クラインフェルター症候群ーのSD [性的発達における様々な違い] ※性分化疾患・ジェンダー (社会学的)

スライド1

少年,少女,男性,女性

な検査をしないとわからないタイプというふうに分けられます。

私たちの出生時の性別というのは、股間にペニスがついているかどうかということで決められるわけです。ついていれば男の子といわれます。生まれたときの性器の特徴、両性具有で生まれるような、見た目でいかにも男と女の特徴の両方を持っているというのを想像しがちですが、本人さえわからないぐらい、知らないまま死んでいくぐらい明らかにならないもの、隠れた状態にあるというのがほとんどです。

生まれたときの性器がどっちかわからないというのは、2000人に1人といわれますけれども、ほとんどが隠れたわからない状態のインターセックスなわけですから、それは人口の1%、100人に1人はこういう状態で生まれてくるというのが私の推定値です。本人さえも知らずに育ってきた人たちがどの機会にわかるかというと、子をなしたいと思ったときに、不妊症で悩む、それで検査に行く、そこで判明するというようなことがあります。

#### インターセックスの状態とは

この方(スライド2)は、私が研究の初期に出会った方です。She(彼女)は染色体の型が XY で、精巣もあります。でも、外見を見ていただいたらわかりますように、非常に女性的な外見をしています。彼女は、男性ホルモンに体が反応しないという状態のアンドロゲン不応症候群・完全型と呼ばれるインターセックスの状態にあります。精巣からは通常の男性ホルモンが出ていますが、身体がそれに反応しないため、外性器を始めとする身体的特徴は非常に女性的なのです。







スライド3

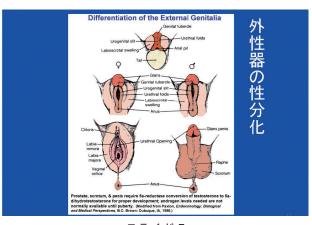
スライド4

スライド3は、インターセックスの状態の中でもよく見られるといわれる CAH (先天性副腎過形成症) と呼ばれる状態の人の外性器です。卵巣があって、膣があり、染色体の型は XX ですが、非常に男性的な外見です。写真(スライド4)を見ていただいたらわかりますように、生まれたときの生殖器、外性器の形は男性化した状態で生まれます。テストステロンの作用によって、クリトリスが男性化、肥大化した人です。男性ホルモンが過剰に出ることによって、男性化が起こる症例です。

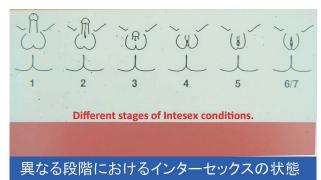
#### 外性器の性分化

胎生期のときの性器の状態というのは非常に中性的な状態で、そこから男性的特徴、女性的特徴に分化していく様がこの図(スライド5)に示されています。

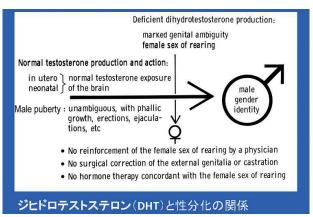
スライド6は、1番が典型的な男児、6/7番が典型的な女児の外性器ですが、それ以外にも様々な形態がありうるということを示したものです。染色体が XY で、精巣から正常値の男性ホルモンが出ていても、ホルモン受容体が反応しないから身体的特徴が女性化して生まれてくる場合もあるのです。ある種の酵素が足りないがゆえに、男性化しないで女性化して生まれてきたという状態の場合でも、思春期になって、男性化



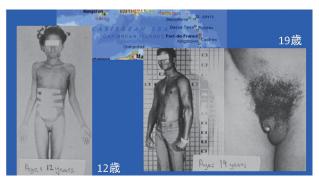
スライド5



スライド 6



スライド7



スライド8

が促されるというようなことがあります。

この図(スライド7)が示しているのは、出生時の 性器の外見からすると女性化している場合でも、胎生 期に脳はすでに男性ホルモンの働きによる影響を受け ているために、ジェンダー・アイデンティティが男性 になるということがあるということが示されています。 また、だからこそ、外性器の見た目に基いて手術やホ ルモン療法など、不可逆的な介入によって女性化させ てはいけないのです。あくまでも本人がどうしたいか を自己決定できるようになるまで待つべきなのです。

スライド8は、思春期で男性化が起こった事例です。 同じ人の12歳のときの写真と、思春期を経て二次性 徴の発来によって男性化した後の性器の見た目がまっ たく異なる様子がわかると思います。こうしたインタ ーセックスの事例は、ドミニカ共和国で高い頻度で見られるということが知られているのですが、その理由はインターマリッジ=近親婚が繰り返されたことによって、遺伝的に受け継がれてきたのだろうと言われています。

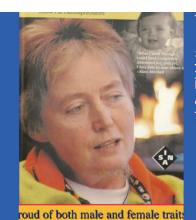
#### アイデンティティ

次にお話するジェンダー・アイデンティティというのは、自分を男と思っているのか、女と思っているのか、boy なのか girl なのか、man なのか woman なのかという感覚のことです。

性別欄に記入する M (male) あるいは F (female) というのは、生物学的な次元について言及する時に使用される言葉です。人間だけでなく、動物のオス・メスについても male、female を使用します。一方のboy とか girl、man とか woman というのは社会的な存在に言及する言葉です。だから、日本語に訳してしまうと全部一緒になってしまいますが、英語表現では「male として生まれた=生物学的には男性として生まれた人が、girl として、あるいは woman として生活している」といった、区別した言い方が可能であり、またそうした表現をすることが大事です。

一般にトランスセクシュアルとインターセックスは 異なる状態として区別されますが、トランスセクシュ アルもまたインターセックスの一種だと考えています。 トランスセクシュアルの人たちにとってインターセッ クスの状態にあるのは、性器などの身体的特徴ではな く、脳です。

この方(スライド9)を見てください。金髪なので ちょっと見えづらいかもしれませんが、立派にひげを



マニ(Mani)

男性的特徴と 女性的特徴の 両方をもつこ とに誇りをもっ ている

スライド9



スライド 10



スライド 11

蓄えておられますね。ひげが見えなければ、女性的な印象を受ける顔立ちだと言えるかもしれません。この方はまさにそういう女性的なところと男性的なところ、このひげを蓄えるということに誇りを持っておられるのです。

この方(スライド10)は、タイの有名なムエタイ選手でした。写真に示されているように、段階的に、 手術を受けるなどして性別移行をした人です。

この方(スライド 11)は、つい最近、大きな話題になった有名人で、米国の十種競技の元世界記録保持者で、モントリオールオリンピックの金メダリストです。性別移行するにあたり、名前もブルース・ジェンナーからケイトリン・ジェンナーに変えました。

トランスセクシュアルであるということが、生物学的要因にどれくらい規定されているのかを調べるのには、双子の研究が最適だと言われています。双子に限った性別移行の一致度というものを調べた場合に、一番一致率が高いのは、男・男の組み合わせの一卵性の双子の場合という調査結果があります。双子のひとりが性別移行した場合に、もうひとりも性別移行する二人の一致率は、男児の一卵性で最も高く3分の1ほどになります。これは遺伝的な要因、影響が非常に強い

#### Concordance of Transitioning for Male and Female T Twins ふたごの性別移行の一致度

Table 5: Distribution of responses found in combined bibliog. & survey searches.

Sex	Zygosity	Concordance Totals					
	195 \$ mm a	Yes —致 No	不一致	N total	Con	Yes %	
Male	MZ 一卵性	7+6 13 10	+16 26	39	13/39	33.3%	
男性	DZ 二卵性	1+0 1 9-	H11 20	21	1/21	4.8%	
		3 1 10					
Female	MZ 一卵性	5+3 8 9+	18 27	35	8/35	22.9%	
女性	DZ 二卵性	0+0 0 2+	15 17	17	0/17	0%	
15.00							
Totals	<b>美洲岛东</b> 特	13+9 22 30-	160 90	112	22/112	19.60	

ふたご調査(112組)において、全体の一致度は19.6%だが、一卵性の場合は一致度が高く、とくに男子のふたごで最も高い。

スライド 12

ということを示唆するものです (スライド 12)。

一卵性双生児でありながら、別々の環境で育ち、16歳になるまで一度も会わなかった事例があります。この二人は別々の環境に育ちながら、両方ともが性別移行していました。

私たちというのは、性について考えるとき、性別について語るときに、股間に何がついているか(外性器が何か)ということに注目しがちです。けれども、私たちにとって一番重要な性器というのは、外性器ではなく、脳なのだということが、私が言いたかったことです。どうもありがとうございました。





休憩をはさんで、同志 社大学のフィリップ・ト ロモビッチ教授の講演「幼 少期の性的虐待経験が成 人期の心理的・性的健康 に及ぼす影響:全国調査 と大学調査の結果を考察 する」が行われた。氏に よれば、子どもを対象と

した「性的虐待(Sexual Abuse)」に関する調査研究は国レベルでほとんど行われておらず、その背景には、子どもが性的行為に従事することへの否定的なまなざしがあるという。

一般には、幼少期の性的虐待経験は長期的な負の影響を与えると考えられている。しかし今回、被害者の被る長期的な心理的・性的健康について、複数の調査



研究を調べたところでは「長期的な負の影響は小さい」ということが示唆されたという。もっとも、関西性教育研修セミナーの共同代表である野坂祐子氏(大阪大学)によれば、この研究(=講演に登場する)「性的虐待(Sexual Abuse)」の定義は、一般に日本で使用される「親からの性的虐待」といった狭義よりも広い意味で捉えられていることから、そのことも今回の研究結果に影響しているのではないかという指摘がなされた。

また、「鼎談 ダイアモンド×トロモビッチ×東」のコーナーでは、性に関する研究の直面している困難についても話し合われた。たとえば、ダイアモンド教授の有名な研究のひとつには、児童ポルノを禁止していない国では性犯罪が低く抑えられていることを示唆する警察庁発表データなどが存在しているが、こうした結論を導く調査研究は社会的な反発が強く、科学的に研究しようとすること自体が困難な状況に追い込まれている。児童ポルノをテーマとする研究者が、研究のための資料を入手することさえ米国の連邦法違反が問われる場合もあるという。

同性愛やトランスジェンダー現象が神への冒涜である、性犯罪である、あるいは精神的な病理であるとしたり、女性には性的欲望がないと考えられたり、マスターベーションを治療の対象としたりと、性をめぐる諸言説の歴史には様々に学ぶべき教訓がある。現代においてもタブー視されたテーマや、政治的に科学的研究の遂行が困難なものがある。こうした社会的環境にあることを認識しつつ、困難に立ち向かっていくことが求められている。こうした議論の後、会場との質疑応答でセミナーは終了した。

※ミルトン・ダイアモンド教授の講演は、大阪府立大 学の東優子教授がスライドの日本語訳と通訳を担当 した。